# 令和４年度

# 教職課程

# 自己点検・評価報告書

京都西山短期大学

# 目　　次

Ⅰ　教職課程の現況及び特色----------1

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価----------2

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み--------2

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援----------4

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム----------5

Ⅲ　総合評価----------7

Ⅳ「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス----------7

Ⅴ　現況基礎データ----------8

## Ⅰ 教職課程の現況及び特色

### １．現状

（１）大学名

学校法人京都西山学園 京都西山短期大学

（２）学科・専攻名

仏教学科　仏教保育専攻

（３）所在地

京都府長岡京市粟生西条 26

（４）学生数及び教員数　（令和４年5月1 日現在）

【仏教保育専攻】

学生数： 教職課程履修者数　　６２名（１回生２７名、２回生３５名）

教員数： 教職課程専任教員数　　6名

### ２．特色

本学は教育基本法並びに学校教育法に則り、高等普通教育の基礎の上に仏教学の教養に重きを置く大学教育を施すことを目的とし、仏教精神をふまえ、広く社会の福祉に貢献する人物の育成をめざすことを使命とする。(学則第１条)

また同第１条の２には、「本学の設置する各学科又は専攻における人材の養成に関する目的その他教育研究の目的については別に定める」と記し、仏教保育専攻における具体的な教育方針とディプロマ・ポリシーについては大学案内および学生便覧に、次のように明記している。

教育方針

本コースの教育方針として、「他者に対し慈悲の心で接することのできる保育者の育成」を挙げているが、これは本学の建学の精神や理念に基づいたものである。保育技術の習得だけでなく、温かい大きな心で人に接することのできる保育者になってほしいと願っている。

ディプロマ･ポリシー

保育幼児教育コースでは、本コースのカリキュラムを履修し、62 単位の単位修得等の要件を満たし、次のような能力・資質を備えた人物に学位を授与する。

①（思考・判断）

建学の理念である温かい思いやりのある心を身につけ、ひとりひとりの子どもに寄り添う保育に必要な思考力と判断力とを身につけている。

②（知識・技能）

保育者として必要な汎用的な知識や、技能を取得している。

③（人間性）

実社会で起こる様々な問題について、持続可能な発展、維持貢献できるような解決策を主体的に考え、行動することができる。

④（意欲・表現）

子どもや保護者等、さまざまな人々を尊重しながらコミュニケーションを図りつつ、具体的な保育を計画し、創造することができる。

仏教保育専攻は、保育養成機関として 18 年が経ち、今春、保育士資格・幼稚園教諭 2 種免許を取得した第 17 期の学生を社会に送り出している。2 年間の学びにおいて、単なる知識や技術の習得に終わらせず、実践へと対応できるように努めている。

## Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

### 基準項目１－１　教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

「卒業認定･学位授与の方針」では､本学は､仏教の教えをもとにした情操教育による　「人間」の心の育成を建学の理念とし、教育の基本としている。本学の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：以下 DP と記す)」は、「DP1：共感を通じて得られるよろこびや安らぎによって、他者を思いやることのできる心を育み、人々のために自分の持てる力を発揮することができる。DP2：社会人に求められる幅広い教養と専門分野において必要な専門知識を身につけている。DP3：実社会で起こる様々な問題の解決策を考え、表現し、実践することができる。DP4：円滑なコミュニケーションを実践し、地域や社会の一員として協働することができる。」である。

「教育課程編成・実施の方針」においては、本学では、ディプロマ・ポリシーに定められた 4 つの能力を身につけるために、「基礎教育科目」、「専門基礎科目」、「専門教育科目」を体系的に編成している。また授業科目は、講義、実習、演習を適切に組み合わせて開講している。教育課程編成・実施の方針（ カリキュラム・ポリシー：以下 CP と記す）の「CP1：建学の理念である温かい大きな心を育み､豊かな人間性を発揮するため｢仏教学概論Ⅰ・Ⅱ」を必修とする。CP2：「基礎教育科目」では、社会で必要とされる基本的な知識や能力および教養の習得を目的とする。CP3：「専門基礎科目」では、専攻するコースで必要とされる基本的な知識や能力および教養の習得だけでなく、必修科目を通して社会人基礎力の充実を図る。CP4：「専門教育科目」では、専攻するコースでの専門的な知識や能力の習得を目的とする。」などを踏まえて教育目標･目的設定し育成を目指す教師像とともに示している。学生へは、新入生オリエンテーションでこれらをわかりやすく、図示したスライドを使って説明している。

これらの学習成果を達成するために、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシ

ー）を定め、体系的で系統的な教育課程を編成・実施している。すべての授業科目が学習成果と関連しており、明示されたシラバスに沿って授業を行っている。また、4 つの学習成果とカリキュラムとの関連性を体系的に図示し、授業科目間の系統性・体系性を可視化したカリキュラム・マップを作成している。これらの実施状況確認・改善のために、自己点検・評価活動、FD・SD 研修を計画的に実施している。

また、育成を目指す保育士像について担当教員が共有していることは無論であるが、専任教員全員が参加する月一回のコース会議で、共有している。そのうえで、全専任教員が分担して、実習先への訪問を行い、実習先の要望の聞き取りや学生の指導を行い、訪問後の情報共有や次年度に向けての改善について話し合いを計画的に行っている。

〔長所・特色〕

１年次から教育実習に関する事前指導を行い、教職課程の目的・目標を学生に周知し、２年次後期の保育・教職実践演習のまとめまでつなげている。在学の２年間をかけて本学の目指す保育士像を学生に周知し、共有している。また、実習担当教員のみならず、コース等で全専任教員と情報を共有し、学生の指導にあたり、本学の目指すべき保育士像の養成に向けて取り組んでいる。特に、１年次の教育実習を踏まえて、２年次の教育実習への取り組みについて学生を専任教員全員で教科での指導や生活全般の支援を行って、目指すべき保育士像の育成に努めている。

〔取り組み上の課題〕

本学の目指す保育士像について、これまでの実績と時代の流れに求められている内容の整合性を図っていくことが課題である。

### 基準項目１－２　教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

京都西山短期大学仏教保育専攻では、教育課程編成・実施の方針に基づき、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員と実務経験のある教員をバランスよく配置し課程を運用している。ゼミ担任制により学生相談、進路指導の充実を図っている。事務局教学課並びに仏教保育専攻専任教員が免許申請や教職課程の教育課程を管理し、単位取得状況等は教学課が中心となりゼミ担任と密に連携し、指導に生かしている。

教職課程の質的向上のために、学生による授業評価アンケートの評価結果を生かした授業改善を行うとともに、授業改善のためにＦＤ・ＳＤ研修を計画的に行っている。

授業評価アンケートは実施しており、ＦＤやＳＤに活用している。個々の教員が担当授業科目について質向上のために利用したり、教職課程全体としての問題意識に繋げている。

〔長所・特色〕

教職課程の担当者には、実務家教員と研究者教員がバランスよく配置され、委員会ではそれ

ぞれの見識にたった意見交換ができている。

〔取り組み上の課題〕

教員養成の状況についての、数値的な公表については年度更新を行っているが、全体的な情報について評価を受ける機会はこれまでなく、総括的な公表の方針に統一性をもたせることが課題である。

**基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援**

**基準項目２－１　　教職を担うべき適切な学生の確保・育成**

〔現状説明〕

京都西山短期大学仏教保育専攻では、建学の精神に基づいた入学者受け入れの方針（ アドミッション・ポリシー）を掲げ、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得及び卒業後の社会貢献ができる人材、また、「保育者としての専門的な知識と技能」「表現力とコミュニケーション能力」「責任感と協力性」という専門性と人間力、「地域貢献」と自分と関わる全てのものに対する本コースの教育方針、「他者に対し慈悲の心で接することのできる保育者の育成」の精神を兼ね備えた人材を募集している。

本学 Web ページや大学案内、学生募集要項等だけでなく、高等学校説明会や進路ガイダンス、オープンキャンパス、高大連携授業プログラムの出前講座等を通じて、本学が志願者に求める資質能力について伝えている。その他、HP には、教育目的やカリキュラム・マップ、組織体制など、教職課程に関する情報の公開や教員養成の取り組みに関するページを掲載し、教員の魅力を伝えている。

入学した学生は、カリキュラム・マップを通して、本学の学生の学修成果の目標の（思考・判断、知識・技能、人間性、意欲・表現の４つのディプロマ･ポリシー）を柱とした教育方針への理解を深める。学習成果の習得状況は、成績評価、実習評価、「保育・教職実践演習（幼稚園）」の履修カルテなど量的質的データを用いて総合的な評価を行っている。

〔長所・特色〕

本学の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の、知識、能力、目的意識、意欲を備えた人物を求めている。

入学予定者を対象に「入学事前学習会」を入学年度前に数回行い、入学前から将来の進路について再確認し明確にした上で、入学までに知っておいてほしい内容や、必要となる知識や技能について講義・演習形式で行っている。「入学事前学習会」では、簡易なシラバス形式で書かれた内容を含む冊子を作成使用し、入学後の授業への接続に配慮し、「保育者としての教養」や「学生の基本的生活習慣」などの大学での学習を円滑に行えるような取り組みも行っている。

〔取り組み上の課題〕

少子化が進行する中で学生を確保するためには、在学生の満足度を高めるとともに学生自身が自己の学習成果を確認し向上できるような仕組み作りが必要であり、課題となって

いる。

履修カルテについては、学生は自らの教職への道のりを自己点検・評価することができるが、評価の基準であるその項目の内容の見直しや教員のフィードバックのタイミングや関わり方について検討が必要である。

### 基準項目２－２　教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学では、学生に対して、履修から卒業までゼミ担任が指導をしている。教員は年２回の個別面談（複数教員で実施）の他、オフィス・アワーを活用するなどして個人面談を行い、学生の職業意欲や適性の把握に努めている。毎月の仏教保育専攻会議で、課題のある学生などの情報交換を行い、ゼミ担任が中心となって個別指導を行い、入学から卒業まできめ細やかな指導を行っている。また、総合支援室が主体となり、各種部会、委員会、事務局学生支援課等全教職員と連携を図りながら、独自のキャリア支援プログラムに基づいた職業教育を推進している。当支援室は、入学前の「事前学習会」に始まり、入学後のオリエンテーション、就職ガイダンス、卒業後の「フォローアップ」までキャリア支援体制を整えている。その間、求人情報の紹介、履歴書の添削、面接指導等の支援も行っている。また、卒業生を受け入れる園、施設、企業からの評価・意見の聴取、免許の取得率、就職率等を測定・評価することで、職業教育の効果を検証し、教育課程・教育方法の向上充実・改善に努めている。

〔長所・特色〕

仏教保育専攻では、基本的に全学生が幼稚園教諭二種免許状および保育士資格を取得することを前提としてキャリア支援の充実に努めている。前述した独自のキャリア支援プログラムでは、教職員による支援に加えて、卒業生、地域の園や施設の方々による学びの支援も行っている。卒業生である保育現場の保育者や地域の園や施設の責任者を招いたりしている。そうすることで、学生は就職や目指す保育者像へのイメージを具体的に持つことができ、進路の動機付けや就業意欲の向上につながっている。

〔取り組み上の課題〕

学生の職業観を充実させ、目指す保育者像を深めるためのサポートを引き続き行っていくため、「就職ガイダンス」などの内容の充実が課題である。また、「キャリア開発」のような一斉授業に加え、総合支援室やゼミ担任などと連携を図りながら、面接などのより丁寧な個別指導を行い、教職課程履修の意思確認に努める必要がある。

## 基準領域３　適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目３－１　教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

京都西山短期大学仏教保育専攻は、保育者（幼稚園教諭および保育士）の養成を主たる目的としている。建学の精神の「智慧・慈悲」に努める人材を育成するため、系統的な教育課程

を編成している。すべての授業科目が学習成果と関連しており、授業科目間の系統性・体系性を可視化したカリキュラム・マップを作成し、履修マップと合わせて、履修者に対して学習の段階や順序等をわかりやすく示している。学生は、履修カルテで振り返りを行うとともに、シラバスに記載された到達目標の自己評価を行っている。

ICT に関しては、ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育に対応するため、コンピュータ科目を中心に情報活用能力を育てる教育への対応を行っている。また、アクティブ・ラーニングを意識した授業の活用を進めており、各授業においてシラバスに明記し、積極的に運用している。教育実習を行う上で必要な履修要件は、「実習の手引き」において明記されている。また、実習の履修のための要件、資格等は「教育実習及び保育実習に関する内規」に定められている。「保育・教職実践演習」では、グループ活動やロールプレイ等を通して、教職課程における学習内容の振り返りとフィードバックを行いながら、学生の資質能力を確認している。

〔長所・特色〕

本学の教育の目的・目標、教職課程コアカリキュラムを踏まえ、教職課程科目とそれ以外の教科目等との系統性を確保しながら特色あるカリキュラム編成をしている。さらに、ICT 活用スキルの習得のために、情報機器に関する科目や指導法科目を中心に情報活用能力を育てるための、必要に応じて個別指導を取り入れた指導も行われている。また、学生からの授業アンケートなどを取り入れながら、自己点検・評価を行っており、それらをふまえた教職課程カリキュラムを実施している。

〔取り組み上の課題〕

来年度より新カリキュラムが施行されるため、教育実習を行う上で必要な履修要件の運用に課題があることから、内規の見直し等を行う必要がある。さらに、履修カルテを活用し、個々の学習成果がより効果的に運用され学生の学びにつながるよう見直しを行う必要がある。

また常に進化する情報機器と使用法など、ICT 活用スキルの取得が課題である。

### 基準項目３－２　実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

教育実習は、現場において体験的な学習ができる貴重な機会である。本学では、全科目の知識・技能を基礎として、幼児と直接ふれ合い具体的・総合的に保育をする実践科目として位置づけ、意欲をもって実習に臨めるよう実習運営を行っている。マナーや心構えを含め、基礎から応用へ段階的な実習内容となるよう、市内・市外の協力園と連携して、実習を運営している。保育実習Ⅰとして、施設実習は、１年次 1 月に２週間、保育所実習は１ 年次2月に２週間、また、保育実習Ⅱ又はⅢとして2年次8月に２週間実習を行っている。幼稚園教育実習は2年次 6 月【前期】と9月【後期】にそれぞれ2週間となっている。実習期間中は仏教

保育専攻の教員全員で各実習園を巡回し、学生に指導助言を行っている。また、ゼミ活動などにおいて本学近隣の幼稚園児を対象に様々なふれ合い体験活動を実施することを通して、幼児について学生が理解する機会を設けている。**事後には必ず振り返りのための反省会を設け、自省と共に次への課題を発見することに努めている。**

〔長所・特色〕

実習前に「実習事前指導」として手遊び・指あそび、ペープサート、絵本、パネルシアター、素話、ゲーム等の保育技術指導を行い、学生は実習先でその技術を生かすことができている。また、実習評価の低い学生に対しては実習担当教員とゼミ担任が面談を行い、実習先からの指導内容や本人の課題を生かしながら次の実習に役立てるようにしている。

〔取り組み上の課題〕

実践力の基礎を学んだり、次年度の実習先を選択したりするため、1年生を対象にインターンシップ実習の導入を検討しているが、それに対する指導、支援が確立できていないのが課題である。

## Ⅲ 総合評価

本学の教職課程については、基準Ⅰ～Ⅲの観点において、取り組み上の課題は各々であるが、免許取得者のうち、保育園を含めると大半が専攻を活かして就労しており、総合的には良好であると判断できる。今後も本学の長所・特色を維持しながら課題点を克服し、改善を重ねていく必要がある。

特に、学習成果の達成のために、シラバス、教職課程履修カルテ、個人面談シート等や実習記録、各授業での授業評価アンケートなど、教職員・学生が自己評価を行うことができる場面は多々ある。それぞれの意味付けはなされているが、十分に活かしきれておらず、学習成果の達成には個々の取組を有機的につなげるしくみが必要であり、今後の課題である。また、教育実習を行う上で必要な履修要件の運用にも課題があり、見直し等を行う必要が多々ある。

## Ⅳ「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

令和５年２月に仏教保育専攻会議及び教学委員会において、令和 4 年度の教職課程自己点検評価報告書の作成の内容等について情報共有し、報告書作成のスケジュールを確認し作成することとした。仏教保育専攻の各担当教員が原案を作成し取りまとめる予定であったが、令和 5 年度に集中経営指導法人に判断されたことにより、担当教員の入れ替えが生じた。そのため報告書作成と公開が遅れた。令和 6 年 10 月に専攻会議において原案について修正を重ねて、教学委員会で審議し、最終調整を行い作成した。

Ⅴ　現況基礎データ

Ⅰ　現況基礎データ一覧　　令和4年5月1日現在

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 学校法人　京都西山学園 | | | | | |
| 京都西山短期大学　仏教保育専攻 | | | | | |
| 1　卒業者数、教員免許取得者数、教員就職者数等 | | | | | |
| ①　昨年度卒業者数 | | | | | ３６ |
| ②　①のうち、就職者数<br>（企業、公務員等を含む） | | | | | ２６ |
| ③　①のうち、教員免許取得者の実数<br>（複数免許取得者も１と数える） | | | | | ２８ |
| ④　②のうち、教職に就いた者の数（幼稚園教諭）<br>（正規採用＋臨時的任用の合計数） | | | | | ８ |
| ④のうち、正規採用者数 | | | | | ７ |
| ④のうち、臨時的任用者数 | | | | | １ |
| ２　教員組織 | | | | | |
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | その他（ ） |
| 教員数 | ２ | ２ | ２ | ０ | |
| 相談員・支援員など専門職員数　０ | | | | | |